



映画シンポジウム

Mohtarama

監督: Diana Saqeb、Malek Shafi'i (2013年、アフガニスタン)

2021年8月、ターリバーンが新政権の樹立に向けて動き出す中、路上に出て、よりよい未来を求めたく声を挙げる人々もあらわれました。「アフガン女性は存在する」というスローガンを掲げた運動もその一つでした。

日本では「顔を覆われた存在」というイメージが残るアフガン女性たちですが、Malek Shafi'i 監督とDiana Saqeb監督の本作品では、ここ数十年のあいだに、彼女たちが自らの思いや願い、考えを語ったり、路上に出て声を挙げたりする動きが描かれています。

2010年のヘラートで、2009年のカーズルで、2011年のマサレ・シャリフで、フルカ屋のおかみや、抗議運動の場に集まる人々、12歳で結婚を余儀なくされた女性たちが、それぞれ、「女」であることについてどのように語ったのか。アフガニスタンで女性たちが置かれてきた状況と、その中で育ってきたフェミニズムについて、本シンポジウムでは、人々が直面した困難と抱いてきた希望の両面から接近してみたいと思います。

オンライン開催

2022
3.4
17:00-

登壇者

Malek Shafi'i 監督

鳥山 純子 (立命館大学国際関係学部)

モデレーター

後藤 絵美 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

言語

英語および日本語

要事前登録

▶ <https://forms.gle/itUYtjGKZmMxB1Cp8>

[主催]

・科研費基盤研究(A)空間・暴力・共振性がら見た中東の路上抗議運動とネイション再考:アジア、米との比較 (代表: 酒井啓子, 21H04387)

[後援]

・科研費基盤研究(A)イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究 (代表: 長沢栄治, 20H00085)

・立命館大学 中東・イスラーム研究センター (CMEIS)

